

ペペに飛行機の旅は大嫌いだが、今回は彼の古いプジョー（車）と共にマラベジャに行くよりは心地よいと（飛行機）決めた。マラガの空港でペペとスシは車を借りた、ここからマラベジャ迄行くのだ。彼らはヘススの滞在した同じホテルに泊まることを決めた。部屋は別々でスシは面倒なことが嫌いだ。パーティー迄には一日ある、その間ヘススの行った場所を歩き回るために利用するつもりだ。マドリッドを出発する前に、ペペは再び写真家のチェマに電話を掛けた。そして彼の女友達のために何か希望は無いかと尋ねた。彼は無いと言った、もう彼女のことは忘れてしまった、今はソフィアと言う名前だったことも殆ど思い出すことは無いと言った。このことはペペが知りたいところであった。

ホテルは豪華で殆どの設備が付いていた。天候は常に素晴らしい、太陽に寄り添う雲一つなく太陽は輝いている。“この海岸は他の手法で呼ぶことはできない (costa del sol)” スシは考えた、魅了された。旅行鞆を部屋に置いた後、シャワーを浴び身支度を整え、食事の時間まで少しあった。ホテルの庭を散歩し、プールで泳いでいる人を見た。ペペは地中海地方の祖先を持っているので、海がすぐ側にあるのに、人々がプールを好んでいるのを理解できない。食事を済ませた後、彼等は車に乗りフエンヒローラ、ベナルマデナを通過してトレモリノスまでいった。

流行っている店に行って何杯かを飲み、ある有名な誰かと会うのを期待した、しかし出来なかった。余りにも早い時間なのだ、その人は夜に活動し昼間は寝ているのだ。午後の遅くにラ・カリウエラの海岸へ行き、暖かくて静か海で泳いだ。折角ここに来たので、世間の人が素晴らしいと言っているアントニオで夕食を摂り、真夜にホテルに戻った。